



出張報告書

令和8年 5月 15日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 日本維新の会
 代表者氏名 高谷 浩司
 出張者氏名 山崎 藍子

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

- 1 出張期間 令和8年5月10日から令和8年5月10日まで
- 2 結果の概要

用務先 ・京都市	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 地方議員研究会セミナー 1 自治体財政“超”入門
添付書類 <input checked="" type="checkbox"/> 出張調査報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備考

- 3 届出事項の変更等 なし あり (内容は裏面に記載)

旅費の精算

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 精算額は、令和8年4月14日届け出た額 (1, 920円) と同一額である。 |
| <input type="checkbox"/> 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載) |

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

セミナー報告書

【日時】2026年5月10日(日) 10:00~16:00

【研修】地方議員研究会セミナー

【テーマ】決算カードでわかる自治体財政超入門

【講師】地方議員研究会事務局長 杉本康介

【出席者】山崎藍子 山崎 藍子

【報告者】山崎藍子 山崎 藍子

【報告】

- 決算カードは“自治体の健康診断表”まずは最初に見るポイント
- 歳入の全体像—地方税・交付税・国庫支出金・地方債の役割
- 歳入の全体像—目的別・性質別で「使い道」を読む
- 収支の基本—形式収支・実質収支・単年度収支の違い
- 基金の見方—貯金が増えているのか、崩しているのか
- 地方債の見方—借金の“量”より内容の把握
- 健全化判断比率の入り口—早期警戒のサインをつかむ
- 財政危機が破綻にならないポイント見えない“違和感”を見抜く
- 議会が押さえるべきチェックポイント
- 財政危機は市長の責任ではなく議会の責任。議会の仕事とはなにか

【内容】

～住民の福祉増進と政策実現のための財政・議会活用術～

冒頭に「議員の仕事となないか」と問われた。地方自治法第一条の2には「住民の福祉の増進」と記載がある。議会は住民の幸せのために議員活動をし、その手段として一般質問などがある。これは決して目的ではないため、ほき違えないようにしてほしい。という話から始まった。

・議員としてのマインドセット：目的と手段の再定義

議員の目的は「住民の幸せ（福祉の増進）」である。一般質問や質疑、条例の見直しなどはすべてそのための「手段」であり、目的と手段を混同してはならない。

「自分事」としての財政：自治体の事務ミスや予算の浪費を「自分のお金（身銭）」と捉えるマインドセットが、厳格なチェックと責任ある行動を生む。

根拠への問い：慣習や条例の文言（「増進」か「向上」か等）に対し、常に「根拠はどこにあるのか」という疑問を持って取り組む姿勢が、信頼される言葉を生む。

・二代表制における議会の責任と権限

最終決定権の所在：執行機関（役所）は決定事項を執行する「補助機関」であり、予算や方針の最終決定権は議会にある。したがって、赤字や事業失敗の責任も最終的には議会が負うべきものである。

株主総会としての議会：議会は単なるチェック機関ではなく、投資（予算）に対するリターン（住民の成果）を評価する「株主総会」であると認識し、必要であれば予算修正や否決という強い権限を適切に行使する。

・財政を読み解く戦略的視点

一般財源と予算編成: 自治体が自由に使い道を決められる「一般財源(市税、地方交付税)」をどう配分するか、自治体の意志が現れる。

地方交付税の構造: 「ベットボトル(必要額)にお茶(交付税)を注ぐ」という仕組みを理解し、特に子供の数など国が定める算定ルールの変化から、国の誘導や中央集権化の傾向を読み解く。

財政健全化の指標: 「貯金(基金)をすること」自体を目的化せず、それをいかに住民福祉のために「使う」かが重要。基金の異常な取り崩しは破綻の予兆として素早くキャッチする。

地方債(借金)の活用: 借金を将来世代との負担の公平化の手段として捉え、交付税措置のある有利な地方債などを財政課が適切に活用しているか(見落としがないか)を監督する。

・委員会質疑における実践的アクション

「成果」の解像度を上げる: 「市民のため」という曖昧な表現を許さず、「誰が」「どの状態になるのか」を具体化させる。メリットだけでなく、点字ブロックと車椅子利用者の関係のような「トレードオフ」への配慮も問う。

5W1H とエビデンス: 感情論や意気込みを問う質疑ではなく、事実と数字に基づき、「なぜこの時期に、この手法なのか」を細かく砕いて聞く。

予算・決算のサイクル連動:

予算: この金額でどのような成果を「予見」しているか。

決算: 予算で立てた成果は実際に出たのか。

反映: 決算での指摘が、次年度の「予算編成方針」にどう活かされているかを追跡する。

職員との建設的関係: 職員を「対戦相手」ではなく、良い答弁を引き出すためのパートナーとして捉え、事前の聞き取り(根回し)を通じて行政を動かす。

・活用すべき重要資料リスト

1. 決算カード・類似団体比較カード: 自市の立ち位置を客観的に把握する。
2. 予算編成方針: 市長の戦略と決算の反映状況をチェックする。
3. 決算審査意見書: 監査委員の専門的な評価を決算質疑のベースにする。
4. 包括外部監査報告書: 会計士等の視点から、内部監査との違いを読み解く。
5. 財政状況資料集(総務省): 経年変化と全国的なトレンドを把握する。

【総論】

財政を読み解く力は、議会での主導権を握り、感情論を排して行政を動かすための「最強の武器」である。数字で語り、成果を問い続けることで、住民から託された負託に応え、真の意味での「住民の幸せ」を実現していく。

【所感】

今回の「自治体財政超入門」講座を通じて、財政とは単なる「数字の管理」ではなく、「住民の幸せをいかに形にするか」という意志の現れであることを再認識しました。

・数字を「共通言語」とした行政との対話

特に印象に残ったのは、総務省が公開している「決算カード」や「財政状況資料集」の有用性です。これらの資料は非常に完成度が高く、尼崎市の立ち位置を客観的に把握するための「情報の宝庫」です。今

後はこれらの資料を徹底的に読み解き、尼崎市ならではの活用法について財政課の方々と積極的な意見交換を行いたいと考えています。「現在、市としてどのようにこれらのデータを分析し、次年度の予算編成に反映させているのか」を問うだけでなく、現場の課題感を共有することで、より精度の高い政策提言を目指します。

・「対決」ではなく「共有」による政策推進

行政（職員）を「対戦相手」ではなく、共に街を良くしていく「パートナー」として捉え直すことも学びでした。「なぜできないのか」と追及するのではなく、「私たちが目指すべきゴールや、思い描いている尼崎の在り方」を共有し、そこに至るための手段として財政や予算をどう動かすべきかを議論する。この「ビジョン共有型の政策推進」こそが、今の尼崎に必要なであると感じました。

・住民の負託に応える「根拠ある質疑」

点字ブロックの例に代表されるように、一つの施策には必ず多面的な影響があります。「誰が、どの状態になることを目指すのか」というアウトカム（成果）を常に問い、5W1H と明確なエビデンスに基づいた質疑を行うこと。感情論を排し、数字と事実で語ることで議会の主導権を握り、真に住民の福祉増進に直結する予算執行を求めていきたいと感じました。

実践に向けた具体的なアクションとして

- 尼崎市の決算カード・類似団体比較カードの徹底分析: 本市と近隣都市や類似規模の自治体を比較し、税収構造や扶助費、公債費率の推移から「尼崎の財政的な癖」を見つける。
- 財政課との意見交換会の実施: 資料の読み解き方を深めるとともに、市の予算編成における「優先順位の根拠」について、現場の声を直接聞き取る。
- 「予算・決算サイクル」の監視: 前年度の決算での指摘事項が、令和8年度以降の予算編成方針にどう反映されているか、その「繋がり」を細かくチェックする。

「財政に強い議員」になれるよう、尼崎市民の皆様一人ひとりの幸せが最大化されるためのアクションを、地に足の着いた議員活動に邁進してまいりたいと思います。